



平成20年度 第1回磯子区地域福祉保健計画推進委員会 次第

日時：平成20年6月24日（火）18:30～20:30

場所：磯子区役所 701号会議室

あいさつ

委員の委嘱及び委員長・副委員長の選任

<議 題>

1 各地区の取り組みなどについて

資料1

2 あなたの提案実現事業について

資料2

3 20年度の全体スケジュールについて

資料3

4 意見交換等

<資 料>

- ・ 磯子区地域福祉保健計画推進委員会設置要綱
- ・ 磯子区地域福祉保健推進活動助成金交付要綱
- ・ 磯子区地域支えあい事業実施要綱
- ・ 磯子区あなたの提案実現事業助成金交付要綱
- ・ 横浜市第二期地域福祉保健計画について

資料4

資料5

資料6

資料7

資料8

～誰もが幸せに暮らせるまちをめざして～

スイッチON 磯子

■「スイッチON磯子」各地区の取り組みなどについて

1 20年度「スイッチON磯子」各地区の課題と目標

地区名	課題・目標
根岸	・住み慣れた町で老後も安心して暮らしていける環境づくりと、地域で活動している組織・グループのネットワークづくりによって、支えあえるまちづくりを進めていきたい。 ・世代間交流を図り、お互いに思いやりの心を育てたい。
滝頭	高齢者の多い地域としての認識が強く、「人にやさしく生き甲斐のある安心・安全な福祉のまち」をスローガンに、住民が一体となってさまざまな活動に取り組んでいる。平成7年より定期訪問事業に力を注いでおり、その成果が地域に定着しつつある。今後も「スイッチON磯子」の目標に沿って、町内会や各団体の協力により、人にやさしく安心・安全のまちづくりに努める。
岡村	「スイッチON磯子」に対する地域の要望を調査した結果、昨年度と同様に、次の3つの課題に取り組んでいく。 ①防犯・防災の課題 災害用IDカードの作成に関する支援、防犯防災弱者・要介護者の調査及び救済の推進 ②青少年育成の課題 集団交流、親子で共に楽しむ事業の展開、子どもの自立と活動、子どもによる子ども会の育成 ③高齢者福祉と地域交流 高齢者の集い、高齢者支援事業、高齢者の生きがい対策と生涯学習
磯子	健康の増進と住民の親睦、ひとり暮らしの高齢者が引きこもりにならないように活動に参加してもらうことを目的に、子どもを含む住民を対象としたラジオ体操・ふれあい体操、主に高齢者を対象としたふれあいサロン・見守り訪問活動を実施する。
汐見台	「心通わす汐見台」をテーマに、「子ども・青少年の居場所づくり」「高齢者の閉じこもり予防」「自由に集まれる場所をつくり交流を進める」の3項目について、昨年度に引き続き推進していく。
屏風ヶ浦	・「サロン梅の里」「屏風ヶ浦の歴史」「わいわい」の3部会の活動を拡充して実施していく。 ・「ひとにやさしい屏風ヶ浦」の活動が地域に根付いていない現状があるので、地域にアピールしていく。同時にサポートメンバーの確保を行っていく。 ・3部会が地域福祉保健計画の範囲で合同で活動できる体制づくりを整える。 ・支えあい事業に携わる訪問員、自治会町内会等との連絡会を実施する。
杉田	・安心・安全で、地域に暮らす誰もが健康で幸せな生活を送れるような杉田のまちづくりをめざしたい。 ・杉田に唯一残された臨海地区に、杉田海の公園の実現を図りたい。
上笹下連合	自然とともに生きるまちとして、自然と共存し、地域住民が支えあい、安心して暮らせるまちづくりをめざす。
洋光台	・高齢者、ひとり暮らし高齢者が増えており、外出も難しく、人と話すことも少なくなるなか、こちらから出向いたり、送迎の方法を考えながら楽しい企画を催すことで、参加を呼びかけたい。 ・対象者を絞らずに各世代が楽しめる場所や機会をつくり、「好きですわがまち洋光台」と思えるまちづくりをしていきたい。
上笹下	ほとんどの人たちが顔見知りであるはずなのに、あまり外出を好まないため世代間交流が難しくなっているのが現状であり、どのようにして交流を進めていくかが課題となっている。

2 各地区の取り組み状況一覧について

【一覧表の見方について】

(1)分類の考え方

大分類	小分類
交流	高齢者
	障害者
	子ども・青少年
	団塊世代
	全世代
	その他
健康	体操
	健康チェック
	その他
見守り・訪問	—
防犯・防災	—
講座	—
調査・検討	—

※「交流」の小分類は、対象者によって分類しました。

※「健康」の小分類は、内容によって分類しました。

※いずれの取り組みも複数の要素や目的をもっていると思われるが、一定の傾向をつかむという目的のため、上記のいずれかに分類しておりますので、ご了承ください。

(2)実施団体について

①略称について

推進委	地区推進委員会
ケア連	地域ケア連絡会、支えあい連絡会
町内会	自治会町内会または地区連合町内会
地区社協	地区社会福祉協議会
民生	民生委員・児童委員
保活	保健活動推進員
友愛	友愛活動推進員
青指	青少年指導員
体指	体育指導委員
子ども会	子ども会
ボラ	ボランティア

②表記について

○…19年度・20年度の実施団体

□…20年度から新たに実施に加わった団体

資料1をご覧ください

本資料は、「スイッチON磯子地区推進委員会」及び「地区地域ケア連絡会」からご提出いただいた事業報告書と活動計画書を集計したものであり、集計にあたっては、表現の簡略化等の修正しか行っておりません。そのため、各地区毎に報告方法が異なる場合があるという前提で、本資料をご覧ください。

<例1>

お一人が複数の役職を兼ねている場合に、実施団体の報告にあたり、A地区では一方の役職しか報告しないが、B地区では両方の役職を報告している。

<例2>

高齢者向けの活動内容の報告にあたり、A地区ではいくつかの活動をまとめて1事業として報告するが、B地区ではそれぞれを別の事業として報告している。

■「スイッチON磯子」各地区の取り組み状況一覧(19年度実績－20年度計画)

洋光台

地区名	取り組み名	大分類	小分類	実施団体											対象者	19年度(実績)				20年度(計画)				
				推進委	ケア連	町内会	地区社協	民生	保活	友愛	青指	体指	子ども会	ボラ		その他	目的	内容	実施効果	課題等	目的	内容		
洋光台	交流の集い	交流	高齢者・障害者	○														高齢者・障害者・一般住民	高齢者、障害者と一般住民が交流し、お互いの理解をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 9月6日「第2回 交流の集い」(69人参加) 内容:高齢者、障害者を対象に、懇談、歌、ゲーム等を実施。 3月16日「みんな あつまれ～! 洋光台まつり」(約600人参加) 内容:洋光台住民全体に呼びかけ、昔あそび、屋台、作業所製品販売、サークル活動発表などを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月の集いでは高齢者・障害者の参加が増えた。ラクーン作業所に声かけし、その後のケアプラザ内でのパン・菓子の定期販売につながった。 3月の集いでは、建物だけでなく心のバリアフリーをめざし、あえて個々のグループに声かけをしなかったが、好天に恵まれ子どもからお年寄り・車椅子の方もかなり参加してくれたので一応の効果があったと思う。なにより、違う団体の協力で一つの「まつり」ができたことがよかった。 	歩行困難などの理由で、参加したくてもケアプラザまで来られない人への対応をどうするか。近くの駐車場を確保したり、シャトルバスによる送迎などについても検討が必要。	障害者、健常者、老若男女を問わず、あらゆる人たちが一つの輪をつくり、交流を楽しむ。	連合自治町内会、地区社会福祉協議会、地域ケアプラザの協力のもと、19年3月に開催した「洋光台まつり」の反省を生かし、より一層発展するまつりを企画・実施する。 10月頃開催予定
洋光台	災害時のパスポート作成	防犯・防災	—														ひとり暮らし高齢者等	災害時および緊急時に利用することを目的に、防災パスポートの作成を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> 9月2日 連合の防災訓練に参加。防災パスポートの情報に基づき、民生委員がひとり暮らし高齢者、障害者をケアプラザまで誘導。終了後は中学生ボランティアとともに自宅まで送った。参加者50人。 1月19日 洋光台第一小学校の防災訓練に参加。民生委員が拠点の小学校から高齢者へ安否確認の電話をした。(対象者79人のうち、63人へ電話) 	<ul style="list-style-type: none"> 防災パスポートの各自治会への周知ができた。 中学生の協力が得られた。 この取り組みから、災害時のモデル事業へとつながった。 	高齢化が進む中、地域により担当する人数が集中し、担当者への負担の格差が拡大している。	(連合自治町内会の事業として実施予定)		
洋光台	歌声喫茶	交流	団塊世代	○													いきいき「熟」洋光台 団塊の世代を中心とした一般住民	団塊の世代の地域内での交流と貢献をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 10月14日(54人参加) 第2回 1月20日(51人参加) 内容:ピアノ、ギター、アコーディオン、ハーモニカ等の伴奏にあわせてみんなと一緒に歌をうたい、歌集を作成した。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の感想は概ね好評で、2回とも和やかな雰囲気でもあった。休憩タイムには参加者同士の交流も図られたようであった。 参加者から、「皆さんと大きな声を出し歌えたことが楽しかった」「いろいろな時代を思い出した」などの声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏者の募集…ポスターによる募集とあわせ、地域の方に呼びかけていく。 歌集の準備、運営等に参加してくださる方を、参加者への呼びかけ等で増やしたい。 	健康づくりの一環として、誰でも気軽に参加して歌を楽しむ。	楽器(ギター・ピアノ・アコーディオン)の伴奏にあわせて、歌集を見ながら歌をうたう。 年2回以上実施予定。	
洋光台	パソコンすまいるサロン	交流	団塊世代														パソコンすまいるサロン 団塊の世代を中心とした一般住民	団塊の世代の地域内での交流と貢献をめざす。	毎週金曜日に実施(延べ507人参加) 内容:パソコンに関する疑問・相談への対応、独自のテキストによる学習、インターネット・メールのやり方、交流会など	<ul style="list-style-type: none"> 情報格差の低減:パソコン技術の向上、インターネットの活用により、快適な生活向上を実感し、デジタルディバイドが以前より縮まった。 地域交流の広がり:地域の人たちがパソコンに関する疑問点、操作方法などの課題を解決していく中で、お互いに教えあったり、それぞれ習得したものを地域に還元し、そこで新たな交流が生まれるなど、様々な場面で地域交流の輪が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 連続して学びに来る人が多く、新規の利用者が少ないため、周知のための広報活動が必要(ちらし、ロコミ、掲示など) 利用者数に比べアドバイザーが不足しているため、地域の方々を呼びかけるセミナーなどを企画する。 	(「スイッチON磯子」とは別の事業として実施予定)		

3 磯子区地域福祉保健推進活動助成金について

各地区で行われている福祉保健活動への資金的な支援として、19年度までは、「地区別重点取り組み事業助成金」と「地域支えあい事業助成金」をそれぞれ交付してきましたが、地域における福祉保健活動が一体的に行われるようにするため、20年度から2つの助成金制度を統合しました。

1 助成金の申請状況

(単位:円)

地区名	20年度申請額 (H20. 6. 20時点)		
	合計	基本分	拡充分
根岸	228,000	228,000	—
滝頭	358,000	358,000	—
岡村	192,000	192,000	—
磯子	325,000	325,000	—
汐見台	160,000	160,000	—
屏風ヶ浦	551,000	501,000	50,000
杉田	435,000	435,000	—
上笹下連合	275,000	275,000	—
洋光台	445,000	445,000	—
上笹下	70,000	70,000	—

※要綱にて地区毎の上限額が定められております。

※上限額は、世帯数、民生委員・保健活動推進員・友愛活動推進員の人数に基づいて算定しております。

2 19・20年度の比較

	取り組み内容	20年度	
		19年度	20年度
地区別取り組み	計画の「地区別重点的取り組み」を進める活動	地区別重点的取り組み事業助成金 (200万円)	「地区別重点的取り組み・福祉保健の推進に資する活動」分 (200万円)
	その他福祉保健の推進に資する活動		
地域支えあい事業	支えあいのまちづくりに必要な福祉保健推進活動	地域支えあい事業助成金 (50万円)	「地域支えあい事業」分 (100万円)
	見守り・訪問活動等		

活動拡充分 (50万円)

※20年度から、「活動拡充分」として、これまでの活動をさらに拡充するために必要な備品等についての助成を希望する場合に、拡充分の助成を行います。

4 19年度地域支えあい事業実施状況

(1) 見守り・訪問活動実施状況

(平成20年3月1日～3月31日)

	ひとり暮らし 高齢者世帯	高齢者のみの世帯	障害者等 その他の世帯	合 計
地区で把握している世帯数 (A)	2,383 世帯	1,549 世帯	157 世帯	4,089 世帯
訪問実施世帯数 (B)	1,738 世帯	286 世帯	30 世帯	2,054 世帯
訪問実施率 (B)/(A)	72.9 %	18.5 %	19.1 %	— %
延べ訪問回数 (C)	3,150 回	409 回	86 回	3,645 回
一世帯あたり 平均訪問回数 (C)/(B)	1.8 回	1.4 回	2.9 回	— 回
定期訪問以外の見守りの みを実施している世帯数	527 世帯	334 世帯	47 世帯	908 世帯

(2) 訪問員数

(平成20年3月1日現在)

民生委員・児童委員	199	人
保健活動推進員	194	人
友愛活動推進員	156	人
自治会・町内会関係者等ボランティア	366	人
合 計	915	人